



Setting samples ServiceNow連携モデル導入手順

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「Setting samples ServiceNow連携モデル」を「ServiceNow連携モデル」と記載します。

第1.1版 (ITAバージョン1.9.0/1.10.1/1.10.2版)

Exastro developer

目次

1. はじめに

1. はじめに
2. 連携サービスとの動作確認
3. 連携対象メニューのオペレーション名とsys_idの関係について
4. オペレーションについて
5. 連携対象となるレコードについて

2. ServiceNow連携モデルを使う準備

1. ServiceNow連携用ユーザの準備
2. ITAの準備
3. Playbook利用の準備
4. ServiceNow連携モデルのインポート
5. グローバル変数管理
6. 認証情報の設定

3. ServiceNow連携モデルの実行

1. 連携情報管理

1. 連携対象メニュー管理
2. 項目名紐づけ表
3. メニュー_プルダウン参照先紐づけ表

2. マスタ管理

1. クラス
2. オペレーティングシステム
3. メーカー_sys_id紐づけ表
4. 製品モデル_sys_id紐づけ表
5. サーバ名_sys_id紐づけ表
6. CIリレーションシップタイプ

3. ServiceNow連携モデルでレコードの連携

1. 機器一覧の登録
2. オペレーション作成
3. パラメータシート登録

1. ServiceNow接続情報
 2. 会社
 3. ハードウェアモデル
 4. Linux
 5. Windows
 6. UNIX
 7. ESX
 8. CI関係性
1. Conductor実行
 2. 実行結果の確認

4. 連携対象メニュー追加手順

1. はじめに
2. 連携対象メニューの追加
3. 連携対象メニューをロールと紐付づける

5. ServiceNowからの情報取得方法

1. テーブル名の取得
2. ServiceNow項目名の取得
3. オペレーティングシステムの取得
4. CIリレーションシップタイプのsys_idの取得

6. こんなときは？

1. Failed to import the required Python library～とでて異常終了する。
2. 項目名に「クラス」を利用する場合
3. ITAのディレクトリをデフォルトから変更している場合
4. ServiceNowにCI関係性というメニューがない
5. Failed to delete record: ～とでて異常終了する。

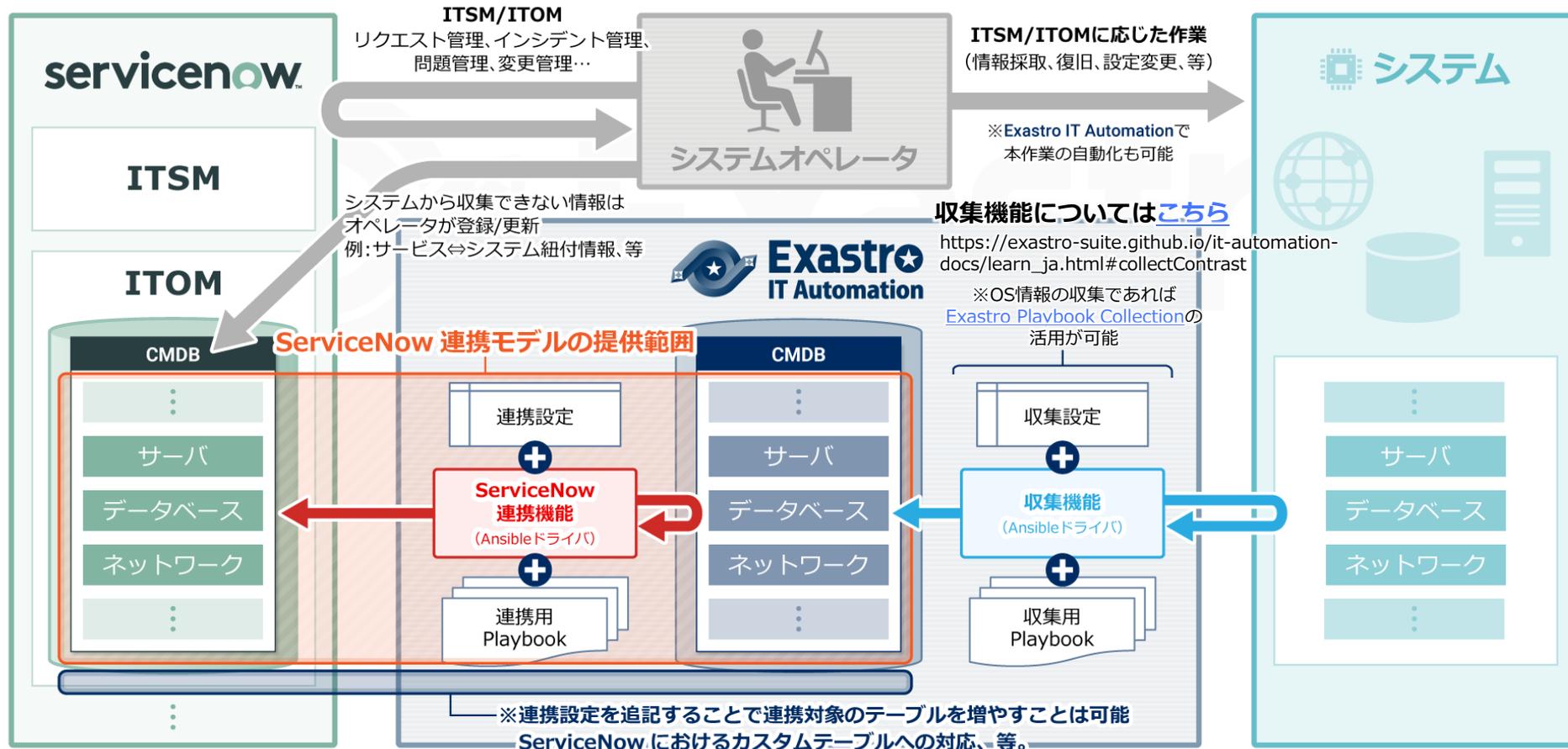
1. はじめに



1.1 はじめに

このドキュメントはServicenow連携モデルをITAにインポートして実行するまでの手順を記載しています。

本モデルの概要について知りたい方は、[Exastroコミュニティサイト](#)の「Servicenow連携モデル概要」をご参照ください。



1.2 連携サービスとの動作確認

ServiceNow連携モデルは以下のバージョンでの動作確認しています。

No.	サービス名	利用条件
1	Exastro IT Automation	バージョン1.9.0/1.10.1/1.10.2
2	ServiceNow	Tokyo

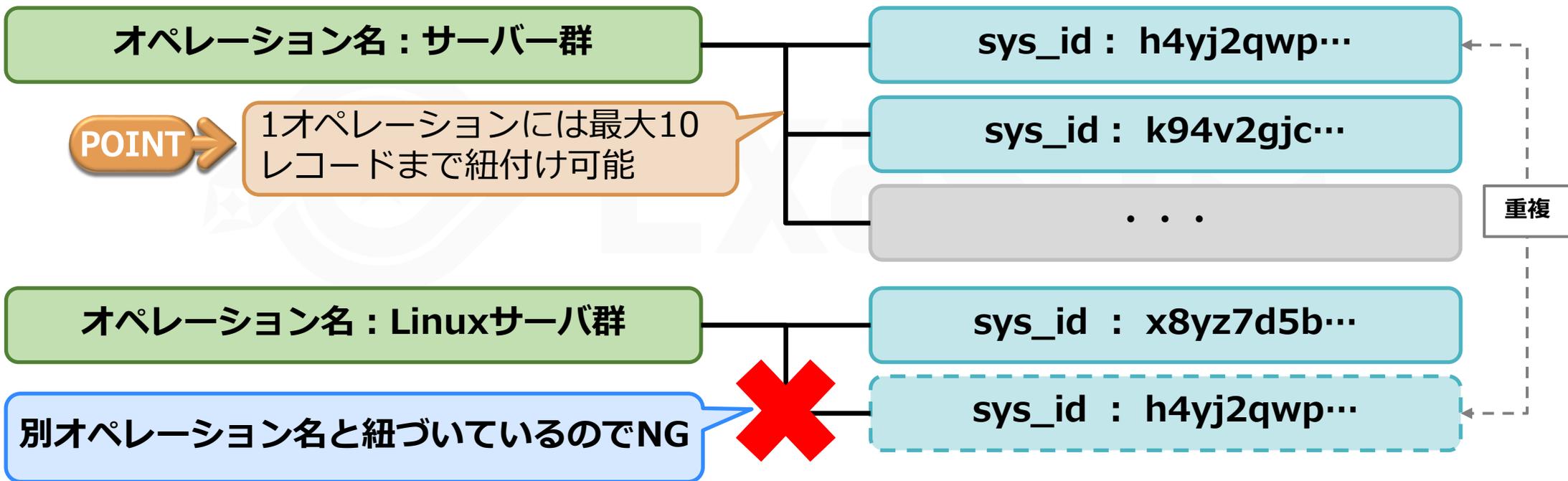


1.3 連携対象メニューのオペレーション名とsys_idの関係について

ServiceNow連携モデルは、「オペレーション名」と「sys_id※」を1対Nの関係で管理することを想定としています。

※sys_idはServiceNow側で設定される一意の管理コードです

登録済みのsys_idを別オペレーションで利用したい場合は、sys_idが登録されたレコードのオペレーション名を変更するか、sys_idが登録されたレコードを削除してから追加してください。



POINT → 連携対象のメニューに登録する「オペレーション名」はあくまでも管理用であり、連携時には利用しておりません。
また、「sys_id」が空白の場合は新規連携対象としてServiceNowへ連携します。

1.4 オペレーションについて

- インポート直後は「ServiceNow連携」オペレーションがデフォルトで登録されています。
- 連携対象のメニューに設定するオペレーション名は初期状態で登録されているオペレーション以外を設定してください。

オペレーション[一覧]									
選択	No. ⇅	オペレーションID ⇅	オペレーション名 ⇅	実施予定日時 ⇅	最終実行日時 ⇅	アクセス権	備考 ⇅	最終更新日時 ⇅	最終更新者 ⇅
						アクセス許可ロール ⇅			
<input type="radio"/>	600,001	600,001	ServiceNow連携	2021/04/01 12:00	2021/06/22 20:52			2021/06/22 20:52:45	legacyRole作業実行プロセス

1.5 連携対象となるレコードについて

追加・更新

- 追加と更新は連携対象のメニューに登録されているレコードの最終更新日時が、最後に正常終了したServiceNow連携の終了日時よりも新しいレコードのみが追加・更新されます。

履歴	ConductorインスタンスID	詳細表示	Conductor名称	オペレーション名	ステータス	実行ユーザ	緊急停止発令フラグ	投入データ式(zip)	結果データ式(zip)	予約日時	開始日時	終了日時
履歴	600,004	詳細	ServiceNow連携	ServiceNow連携	正常終了	システム管理者	未発令	download(.zip)	download(.zip)	2022/07/21 16:27:47	2022/07/21 16:29:03	
履歴	600,003	詳細	ServiceNow連携	ServiceNow連携	正常終了	システム管理者	未発令	download(.zip)	download(.zip)	2022/07/21 14:41:16	2022/07/21 14:42:15	
履歴	600,002	詳細	ServiceNow連携	ServiceNow連携	正常終了	システム管理者	未発令	download(.zip)	download(.zip)	2022/07/21 14:15:47	2022/07/21 14:18:48	
履歴	600,001	詳細	ServiceNow連携	ServiceNow連携	異常終了	システム管理者	未発令	download(.zip)	download(.zip)	2022/07/21 14:09:51	2022/07/21 14:10:27	

POINT

初回連携時は最終更新日時が「2015/04/01 10:00:00」以降のレコードが追加・更新対象となります。

削除

- 削除実行フラグONの場合は連携先のServiceNowにITAには存在しないレコードがある場合削除されます。
- 連携対象のメニューに登録されている全レコードが比較対象となります。

2. ServiceNow連携モデルを使う準備

2.1 ServiceNow連携用ユーザの準備 (1/2)

■ Servicenow側でITAとの連携用ユーザを作成します。

下記のいずれかの場合、連携用ユーザ登録の手順を実行してください。

1. 既存のユーザに構成管理(CMDB)配下のテーブルにRESTによる追加/更新/削除の権限がない場合
2. ServiceNow側にITAとの連携専用のユーザを作成したい場合

■ この手順が不要な場合は [2.2 ITAの準備](#) に進んでください。



2.1 ServiceNow連携用ユーザの準備 (2/2)

1. 「ユーザー管理」⇒「ユーザー」⇒「新規」からServiceNow連携用ユーザを作成する。

The screenshot illustrates the process of creating a new user in ServiceNow. It is divided into three numbered steps:

- Step 1:** The left-hand navigation menu is shown with the 'ユーザー' (Users) option highlighted in a red box.
- Step 2:** The 'システムユーザー' (System Users) page is shown with the '新規' (New) button highlighted in a red box.
- Step 3:** The '新規レコード' (New Record) form is shown with the '送信' (Submit) button highlighted in a red box.

The form fields include:

- ユーザー ID: example_id
- 名: 名前
- 姓: 苗字
- タイトル: (empty)
- 部門: (empty)
- パスワード: (empty)
- パスワードのリセットを強制:
- ロックアウト:
- アクティブ:
- Web サービスへのアクセスのみ:
- 内部統合ユーザー:
- メール: (empty)
- 言語: System (英語)
- カレンダー同期: Outlook
- タイムゾーン: System (Asia/Tokyo)
- 日付形式: System (yyyy-MM-dd)
- 勤務先電話: (empty)
- 携帯: (empty)
- 写真: クリックして追加...
- 苗字名前: (empty)

POINT

「ユーザー名」「パスワード」はⅢ.ServiceNow連携手順 / 2.ServiceNow連携で利用するので、保管しておく。

2.2 ITAの準備

■ 導入サーバの準備

1. ITAをインストールするサーバ(物理/仮想)を用意します。
2. サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。
3. また本サーバはServiceNowと接続(http/https)できる環境を用意してください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/documents_ja.html [ITA システム構成／環境構築ガイド 基本編]

■ ITAをインストール

1. ITAのバージョンは1.9.0/1.10.1/1.10.2をインストールしてください。
2. インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/learn_ja.html [Exastro IT Automation を導入しよう]

2.3 Playbook利用の準備

Playbook利用の準備

1. ITAがインストールされたサーバにTeratermでログインする。
2. Rootユーザになる。
3. 「ansible-galaxy collection install servicenow.servicenow」を実行する。
4. 「ansible-galaxy collection list」を実行し、図1のように表示されていることを確認する。
5. 「pip3 install pysnow」を実行する。
6. 「pip3 list」を実行し、図2のように表示されていることを確認する。

図1

```
[root@ホスト名 ~]# ansible-galaxy collection list
# /usr/local/lib/python3.6/site-packages/ansible_collections
Collection          Version
-----
amazon.aws          1.5.1
~ 略 ~

# /root/.ansible/collections/ansible_collections
Collection          Version
-----
servicenow.servicenow 1.0.6
```

図2

```
[root@ホスト名 ~]# pip3 list
Package             Version
-----
ansible             4.0.0
~ 略 ~
pysnow              0.7.17
```

2.4 ServiceNow連携モデルのインポート

ServiceNow連携モデルの導入ファイルのダウンロード

GitHubからServiceNow連携モデルの導入ファイル(.kym)をダウンロードします。

URL: <https://github.com/exastro-suite/SettingSamples-ServiceNow/releases>

ダウンロードしたファイルをITAにインポート

導入ファイルをExastroの「エクスポート/インポート」機能を使ってITAへインポートします。

「エクスポート/インポート」機能はコミュニティサイトの [ITA 利用手順マニュアル エクスポート/インポート](#) に記載されています。

インポートが完了したらログアウトし、**ユーザーID「servicenow-user」** **パスワード「password」**で再ログインします。

初回ログイン時はパスワード変更画面に遷移するのでパスワードを変更してください。

ユーザー「servicenow-user」で表示されるメインメニューは以下の通りです。



2.5 グローバル変数管理

ServiceNow連携モデルで使用しているグローバル変数は以下の4つです。

- Menu
- メインメニュー
- インターフェース情報
- Ansible Towerホスト一覧
- グローバル変数管理
- ファイル管理
- テンプレート管理
- 収集インターフェース情報
- 収集項目値管理

一覧/更新

履歴	複製	更新	廃止	項番	グローバル変数名	値
履歴	複製	更新	廃止	600,001	GBL_AUTHORIZATION	c2v...
履歴	複製	更新	廃止	600,002	GBL_PROXY	OFF
履歴	複製	更新	廃止	600,003	GBL_CERTFLAG	ON
履歴	複製	更新	廃止	600,004	GBL_DELETE_EXECUTE	OFF
履歴	複製	更新	廃止	600,005	GBL_MAX_RECORDS	1000

項目	入力内容
GBL_AUTHORIZATION	ITAへのREST時に利用する認証情報 デフォルトでは「servicenow-api」ユーザを利用するので変更不要 ※変更方法は 2.6 認証情報の設定 参照
GBL_PROXY	プロキシサーバを指定 [例]sample.proxy.co.jp:8080 利用しない場合：OFF
GBL_CERTFLAG	ON：ServiceNowへのRestで証明書認証を回避する。 OFF：ServiceNowへのRestで証明書認証を有効にする。
GBL_DELETE_EXECUTE	連携データがITAになく、ServiceNowにある場合に ServiceNow側のデータを削除するかを決める。 ON：削除 OFF：無視
GBL_MAX_RECORDS	削除フラグがONの場合にServiceNowから取得してくるレコード数を 指定する。 ServiceNowに登録されているレコード数以上の値を設定する。

2.6 認証情報の設定

ITAへRESTする際の認証情報を変更する場合下記の手順を行います。

1. REST実行用ユーザを作成
2. ロール・ユーザ紐付管理で作成したユーザと「ServiceNowモデル管理者ロール」を紐付け
3. 「ログインID」と「パスワード」を、半角コロン(:)で結合してbase64encode
4. 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」へ移動
5. 「グローバル変数名」が“GBL_AUTHORIZATION”のレコードを更新
6. 「具体値」項目に手順3の値を入力して「更新」ボタンをクリック

※各手順の詳細は下記資料をご参照ください。

[ITA利用手順マニュアル 管理コンソール](#)

[ITA利用手順マニュアル RestAPI](#)

項番	グローバル変数名*	具体値	変数名説明
600001	GBL_AUTHORIZATION	c2VydmljZW5vdy1hcGk6OHpKY2lVUFJmfG1ja3E4UWZnSkxma1V0aWtIVWRL	REST用認証キー

一覧/更新

手順3の結果を入力

3. ServiceNow連携モデルの実行

3.1 連携情報管理

「連携情報管理_ServiceNow連携モデル」はServiceNowへ連携したメニューや項目を設定するためのメニュー群です。

The screenshot displays the Exastro IT Automation dashboard interface. At the top, the Exastro logo and the title '連携情報管理_ServiceNow連携モデル' are visible, along with a 'ロール' (Role) button. The main content area is titled 'メニューグループ' (Menu Group) and contains a grid of menu items. The item '連携情報管理_Service...' is highlighted with a red border. The sidebar on the left contains navigation links for 'メインメニュー', '連携対象メニュー管理', '項目名紐づけ表', and 'メニュープルダウン参照先紐づけ表'.

Icon	Label
	管理コンソール
	基本コンソール
	エクスポート/イン...
	Symphony
	Conductor
	メニュー作成
	比較
	ホストグループ管理
	Ansible共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
	Terraform
	連携情報管理_Serv...
	マスタ管理_Servic...
	ServiceNow接続情...
	組織_ServiceNow...
	製品モデル_Servic...
	サーバー_Service...
	関係性_ServiceNo...
	代入値自動登録用...
	参照用_ServiceNo...

3.1.1 連携対象メニュー管理

連携したいITAのメニュー名とServiceNowのテーブル名を登録します。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface. The header includes the Exastro logo and the title '連携情報管理_ServiceNow連携モデル'. A 'ロール' button is visible in the top right. A left sidebar contains a 'Menu' section with options: 'メインメニュー', '連携対象メニュー管理' (selected), and '項目名紐づけ表'. The main content area has a '説明' section with the text '連携したいITAのメニューIDと対象となるServiceNowのテーブル名を定義する'. Below this are buttons for '表示フィルタ', '一覧/更新', and '登録'. A table for data entry is shown with columns: 'No', 'メニュー名*', 'テーブル名*', and 'アクセス権'. The 'メニュー名*' column has a dropdown menu with '自動入力' selected. The 'テーブル名*' column has an empty text input. There are '設定' buttons in the table. At the bottom, there are '戻る' and '登録' buttons. A note at the bottom left states '※*は必須項目です.'



項目	入力内容
メニュー名	同期したいITAメニュー名
テーブル名	ServiceNowのテーブル名 ※[最大長]64バイト 取得方法は下記参照 5.1 テーブル名の取得

3.1.2 項目名紐づけ表

連携したいITAメニューの項目名とServiceNowの項目名を登録します。

Exastro IT Automation 連携情報管理_ServiceNow連携モデル

Menu

メインメニュー

連携対象メニュー管理

項目名紐づけ表

説明

ITAのパラメータシートに記載されている項目名をServiceNowの登録に必要な項目名に変換するためのメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	メニューグループ:メニュー*	項目名
自動入力	<input type="text"/>	メニューを連

*は必須項目です。

戻る 登録

項目	入力内容
メニュー	同期したいITAメニュー名
項目	ServiceNowへ連携したい項目名
ServiceNow項目名	ServiceNow側の項目名(半角英数字) ※[最大長]256バイト 取得方法は下記参照 5.2 ServiceNow項目名の取得

3.1.3 メニュー_プルダウン参照先紐づけ表

連携したいITAメニューの項目名とServiceNowの項目名を登録します。

項目		入力内容
連携対象メニュー	メニュー名	sys_id紐づけ表を利用している連携対象メニュー名
参照先	メニュー名	連携対象メニューが利用しているsys_id紐づけ表のメニュー名

POINT →

パラメータシート「ServiceNow側連携日時」の一つ後ろの項目でsys_id紐づけ表を利用している場合のみ設定する。

3.2 マスタ管理

「マスタ管理_ServiceNow連携モデル」はServiceNow連携に利用する基本的な情報を登録するためのメニュー群です。

The screenshot displays the Exastro IT Automation dashboard. The top navigation bar includes the Exastro logo and the title 'マスタ管理_ServiceNow連携モデル', along with a 'ロール' button. A 'Menu' sidebar on the left lists various system categories. The main content area, titled 'DASHBOARD', shows a 'メニューグループ' (Menu Group) containing a grid of icons. The icon for 'マスタ管理_ServiceNow連携モデル' is highlighted with a red border.

Icon	Label
	管理コンソール
	基本コンソール
	エクスポート/イン...
	Symphony
	Conductor
	メニュー作成
	比較
	ホストグループ管理
	Ansible共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
	Terraform
	連携情報管理_Serv...
	マスタ管理_Service...
	ServiceNow接続情...
	組織_ServiceNow...
	製品モデル_Service...

3.2.1 クラス

ServiceNowに連携するクラスを登録します。

Exastro IT Automation マスタ管理_ServiceNow連携モデル

Menu
メインメニュー
クラス
オペレーティングシステム
メーカー_sys_id紐づけ表
製品モデル名_sys_id紐づけ表
サーバ名_sys_id紐づけ表
CIリレーションシップタイプ

説明
ServiceNowに表示される「クラス名」をテーブル名と紐づけるメニュー

表示フィルタ
一覧/更新
登録

No	クラス名*	テーブル名*	アクセス権		備考
			設定	アクセス許可ロール	
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>		

※*は必須項目です。

項目	入力内容
クラス名	対象レコードの所属するクラスの表示名 ※[最大長]256バイト
テーブル名	ServiceNowのテーブル名 ※[最大長]64バイト 取得方法は下記参照 5.1 テーブル名の取得

3.2.2 オペレーティングシステム

ServiceNowに連携するオペレーティングシステムを登録します。

**Exastro**
IT Automation

マスタ管理_Servicenow連携モデル

ロール

Menu

メインメニュー

クラス

オペレーティングシステム

メーカー_sys_id紐づけ表

製品モデル名_sys_id紐づけ表

サーバ名_sys_id紐づけ表

CIリレーションシップタイプ

説明

オペレーティングシステム種別を定義するメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	オペレーティングシステム*	アクセス権		備考
		設定	アクセス許可ロール	
自動入力	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>		

※*は必須項目です。



3.2.3 メーカー_sys_id紐づけ表

ServiceNowに連携するメーカー名を登録します。



マスタ管理_ServiceNow連携モデル

ロール

Menu

- メインメニュー
- クラス
- オペレーティングシステム
- メーカー_sys_id紐づけ表**
- 製品モデル名_sys_id紐づけ表
- サーバ名_sys_id紐づけ表
- CIリレーションシップタイプ

説明

メーカー名とsys_idを紐付けるメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	名前	sys_id	アクセス権		備考
			設定	アクセス許可ロール	
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	設定	

※*は必須項目です。

戻る 登録

項目	入力内容
名前	メーカー名 ※[最大長]160バイト [最大文字数]80文字
sys_id	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目

3.2.4 製品モデル名_sys_id紐づけ表

ServiceNowに連携する製品モデル名を登録します。

Exastro IT Automation マスタ管理_ServiceNow連携モデル

Menu

- メインメニュー
- クラス
- オペレーティングシステム
- メーカー_sys_id紐づけ表
- 製品モデル名_sys_id紐づけ表
- サーバ名_sys_id紐づけ表
- CIリレーションシップタイプ

説明

製品モデル名とsys_idを紐付けるメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	名前*	sys_id	アクセス権		備考
			設定	アクセス許可ロール	
自動入力			設定		

※*は必須項目です。

戻る 登録

項目	入力内容
名前	製品モデル名 ※[最大長]160バイト [最大文字数]80文字
sys_id	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目

3.2.5 サーバ名_sys_id紐づけ表

ServiceNowに連携するサーバ名を登録します。

Exastro IT Automation マスタ管理_Servicenow連携モデル

Menu

メインメニュー

クラス

オペレーティングシステム

メーカー_sys_id紐づけ表

製品モデル名_sys_id紐づけ表

サーバ名_sys_id紐づけ表

CIリレーションシップタイプ

説明

仮想マシン名とsys_idを紐付けるメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	名前	sys_id	アクセス権	
			設定	アクセス許可ロー
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	設定	

※*は必須項目です。

戻る 登録

項目	入力内容
名前	サーバ名 ※[最大長]510バイト [最大文字数]255文字
sys_id	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目

3.2.6 CIリレーションシップタイプ

CI関係性に設定する関係性を登録します。



Exastro IT Automation

マスタ管理_Servicenow連携モデル

ロール

Menu

- メインメニュー
- クラス
- オペレーティングシステム
- メーカー_sys_id紐づけ表
- 製品モデル名_sys_id紐づけ表
- サーバ名_sys_id紐づけ表
- CIリレーションシップタイプ

説明

CIリレーションシップタイプを定義するメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

項目	入力内容
名前	任意の名前を入力 ※[最大長]510バイト [最大文字数]255文字
sys_id	ServiceNowから取得して入力 ※取得方法は下記参照 5.4 CIリレーションシップタイプのsys_id取得

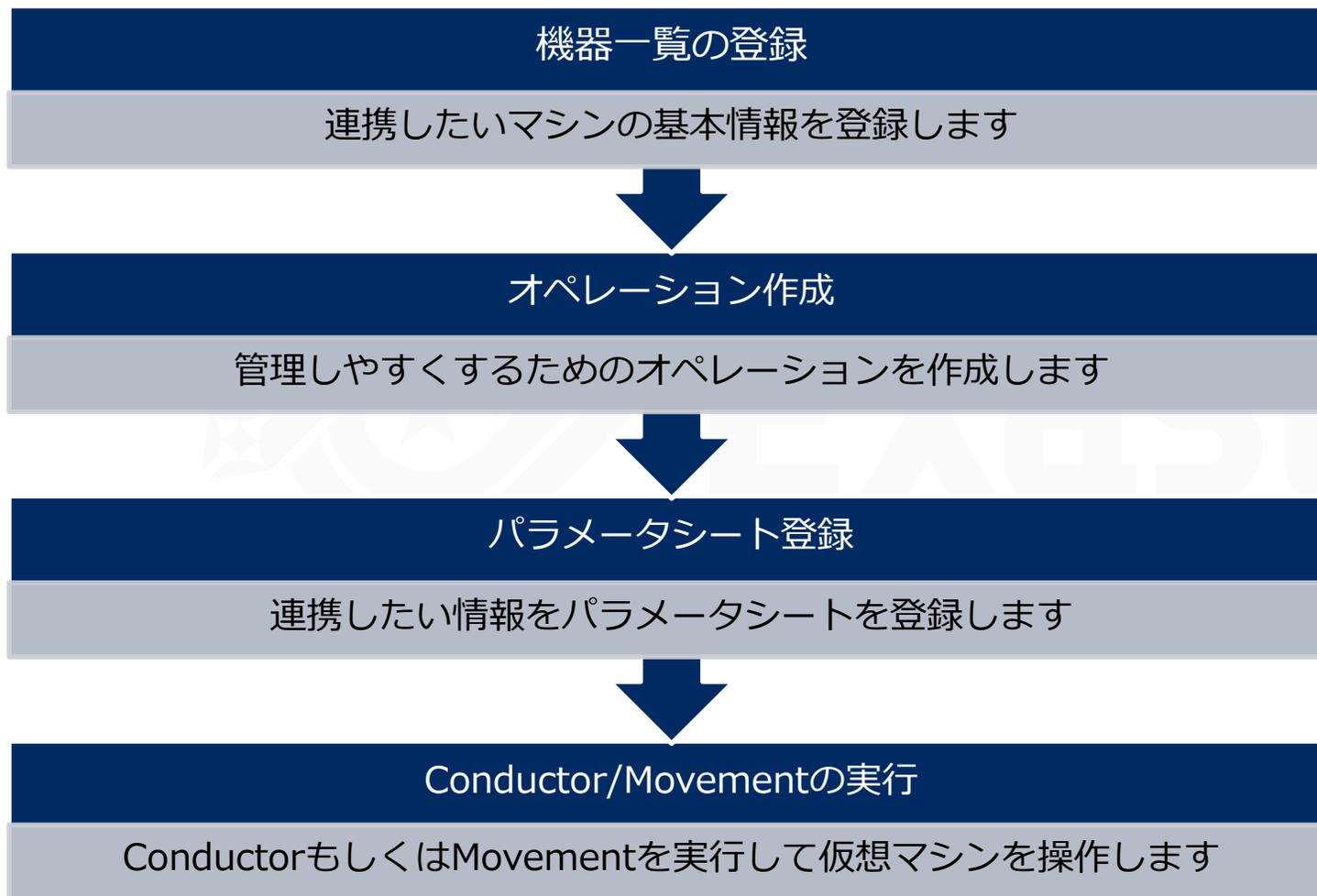
No	名前	sys_id	アクセス権	
			設定	アクセス許可ロール
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>	

※*は必須項目です。

POINT → ServiceNowへ連携させる場合はsys_idを利用するため、名前は設定者がわかるものを設定。

3.3 ServiceNow連携モデルでレコードの連携

ServiceNow連携モデルを使ってレコードを連携するためのアウトラインを以下に記載します。



ここの情報が誤っていたとしてもServiceNow連携の動作には影響ありませんので、ご自身の管理しやすいように作成してください。

仮想マシン操作	操作の実行
連携	Conductor

3.3.1 機器一覧の登録

機器一覧に連携したいマシンの情報を登録します。

各項目の細部については、[ITA利用手順マニュアル](#)をご参照ください。

基本コンソールようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro-sample]
パスワード変更 ログアウト

説明 △閉じる

作業対象ホストの情報をメンテナンス(閲覧/登録/更新/廃止)できます。
各オーケストレータの実行前に作業対象ホストに応じた必要情報を登録してください。

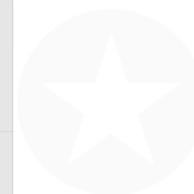
表示フィルタ ▽開く

一覧/更新 ▽開く

登録 △閉じる

管理システム項番	HW機器種別	ホスト名*	IPアドレス*	EtherWakeOnLan		ログインユ	最終更新日時	最終更新者
				MACアドレス	ネットワークデバイス名			
自動入力	<input type="text"/>	自動入力	自動入力					

*は必須項目です。



項目	入力内容
ホスト名	連携対象のホスト名
IPアドレス	連携対象のIPアドレス

3.3.2 オペレーション作成

- 連携対象を管理するためにオペレーションを作成します。
- 各項目の細部については[ITA利用手順マニュアル](#)をご参照ください。



基本コンソール

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro-sample]
パスワード変更 ログアウト

Menu
メインメニュー
機器一覧
オペレーション一覧
Movement一覧
ER図表示

説明 △閉じる

オペレーション一覧をメンテナンス(閲覧/登録/更新/廃止)できます。

表示フィルタ ▽開く

一覧/更新 ▽開く

登録 △閉じる

No.	オペレーションID	オペレーション名*	実施予定日時*	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
自動入力	自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

項目	入力内容
オペレーション名	仮想マシンを操作する際の任意のオペレーション名
実施予定日時	オペレーションの実施予定日時 ※ここで指定した日付で実際に処理が実行されるわけではありません。

3.3.3 パラメータシート登録

連携情報を管理するためのメニュー群に必要な情報を登録していきます。

The screenshot displays the Exastro IT Automation dashboard interface. The top navigation bar includes the Exastro logo, the text "ServiceNow接続情報_ServiceNow連携モデル", and a "ロール" button. Below the navigation bar, there is a "Menu" section and a "DASHBOARD" section. The main content area is titled "メニューグループ" and contains a grid of menu items. Each item consists of an icon and a label. The items are arranged in four rows. The third row contains six items, with the last three items (ServiceNow, ServiceNow, ServiceNow) highlighted with a red border. The fourth row contains four items, with the first item (ServiceNow) highlighted with a red border. The labels for the highlighted items are: "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow", "ServiceNow".

Icon	Label
	管理コンソール
	基本コンソール
	エクスポート/イン...
	Symphony
	Conductor
	メニュー作成
	比較
	ホストグループ管理
	Ansible共通
	Ansible-Legacy
	Ansible-Pioneer
	Ansible-LegacyRole
	Terraform
	連携情報管理_Serv...
	マスタ管理_Servic...
	ServiceNow接続情...
	組織_ServiceNow...
	製品モデル_Servic...
	サーバ_ServiceNow...
	関係性_Serviceno...
	代入値自動登録用_...
	参照用_Serviceno...



3.3.3.1 ServiceNow接続情報

ServiceNowへの接続情報を登録します。



ServiceNow接続情報_ServiceNow連携モデル

ようこそ[サンプルユーザ]さん
ログインID [exastro_sample]

ロール パスワード変更 ログアウト

Menu
メインメニュー
ServiceNow接続情報

説明 △閉じる

ServiceNowの接続情報を定義するメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

No	ホスト名*	オペレーション
1	exastro-it-automation	2021/04/01 12:00_600001:ServiceNo

※*は必須項目です。

戻る 更新

項目	入力内容
ホスト名	変更不可
オペレーション	変更不可
インスタンス	ドメインなしのServiceNowインスタンス名 例:下記の【xxx】部分 https://【xxx】.service-now.com/ ※[最大長]256バイト
ユーザ名	ServiceNowのユーザ名 ※[最大長]256バイト
パスワード	ServiceNowのパスワード ※[最大長]256バイト

3.3.3.2 会社

ServiceNowの組織/会社と連携するための情報を登録します。

説明

ServiceNowの組織/会社と連携するためのメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No ホスト名* オペレーション

自動入力

※*は必須項目です。

戻る 登録

項目	入力内容
ホスト名	対象レコードのホスト名
オペレーション	任意のオペレーション名
ServiceNow側連携日時	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目
名前	対象レコードの名前
sys_id	入力不可
番地	対象レコードの番地
市区町村	対象レコードの市区町村
郵便番号	対象レコードの郵便番号
電話番号	対象レコードの電話番号

3.3.3.3 ハードウェアモデル

ServiceNowの製品モデル/ハードウェアモデルと連携するための情報を登録します。

製品モデル_Servicenow連携モデル

説明

ServiceNowの製品モデル/ハードウェアモデルと連携するためのメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

項目	入力内容	
ホスト名	対象レコードのホスト名	
オペレーション	任意のオペレーション名	
ServiceNow側連携日時	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目	
名前	対象レコードの名前	
sys_id	入力不可	
メーカー	メーカー	対象レコードのメーカー
	sys_id	入力/変更不可
モデル番号	対象レコードのモデル番号	

※*は必須項目です。

戻る 登録

3.3.3.4 Linux

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/Linuxと連携するための情報を登録します。

Exastro IT Automation サーバー_Servicenow連携モデル ロール

Menu
メインメニュー

Linux

Windows

UNIX

ESX

説明

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/Linuxと連携するためのメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

項目	入力内容	
ホスト名	対象レコードのホスト名	
オペレーション	任意のオペレーション名	
ServiceNow側連携日時	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目	
名前	対象レコードの名前	
sys_id	入力/変更不可	
オペレーティングシステム	対象レコードのオペレーティングシステム	
OSバージョン	対象レコードのOSのバージョン	
メーカー	メーカー	対象レコードのメーカー
	sys_id	入力/変更不可

※*は必須項目です。

戻る 登録

3.3.3.5 Windows

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/Windowsと連携するための情報を登録します。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface. The top header includes the Exastro logo and the title 'サーバー_Servicenow連携モデル'. A 'ロール' button is visible in the top right. A left sidebar contains a 'Menu' section with options for 'メインメニュー', 'Linux', 'Windows', 'UNIX', and 'ESX'. The main content area is divided into sections: '説明' (Description) with the text 'ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/Windowsと連携するためのメニュー'; '表示フィルタ' (Display Filter) with '一覧/更新' (List/Refresh); and '登録' (Registration) which contains a form. The form has columns for 'No', 'Host名' (with a red asterisk), and 'オペレーション' (with a red asterisk). A dropdown menu is set to '自動入力'. Below the form, there is a note '※*は必須項目です。' and two orange buttons: '戻る' (Back) and '登録' (Register).

項目	入力内容
ホスト名	対象レコードのホスト名
オペレーション	任意のオペレーション名
ServiceNow側連携日時	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目
名前	対象レコードの名前
sys_id	入力不可
オペレーティングシステム	対象レコードのオペレーティングシステム
OSバージョン	対象レコードのOSのバージョン

3.3.3.6 UNIX

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/UNIXと連携するための情報を登録します。


サーバー_Servicenow連携モデル
ロール

Menu

メインメニュー

Linux

Windows

UNIX

ESX

説明	項目	入力内容
ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/UNIXと連携するためのメニュー	ホスト名	対象レコードのホスト名
	オペレーション	任意のオペレーション名
表示フィルタ	ServiceNow側連携日時	入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目
一覧/更新	名前	対象レコードの名前
登録	sys_id	入力/変更不可
	オペレーティングシステム	対象レコードのオペレーティングシステム
	説明	対象レコードの説明
	OSバージョン	対象レコードのOSのバージョン
	クラス	対象レコードのクラス
	テーブル名	入力/変更不可

No	ホスト名*	オペレーシ	オペレーシ
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

戻る
登録

3.3.3.7 ESX

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/ESXと連携するための情報を登録します。



説明

ServiceNowの構成管理(CMDB)/サーバ/ESXと連携するためのメニュー

表示フィルタ

一覧/更新

登録

No	ホスト名*	オペレーション
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

戻る
登録

項目		入力内容
ホスト名		対象レコードのホスト名
オペレーション		任意のオペレーション名
ServiceNow側連携日時		入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目
名前		対象レコードの名前
sys_id		入力/変更不可 ※Ansibleが設定する項目
メーカー	メーカー	対象レコードのメーカー
	sys_id	入力/変更不可
モデル	モデルID	対象のモデルID
	sys_id	入力/変更不可
オペレーティングシステム		対象レコードのオペレーティングシステム
OSバージョン		対象レコードのOSのバージョン

3.3.3.8 CI関係性

ServiceNowのCI関係性と連携するための情報を登録します。

Exastro IT Automation 関係性_Servicenow連携モデル

Menu
メインメニュー
CI関係性

説明
ServiceNowのCI関係性と連携するためのメニュー

表示フィルタ
一覧/更新
登録

No	Host Name *	Operation
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

戻る 登録

項目		入力内容
ホスト名		対象レコードのホスト名
オペレーション		任意のオペレーション名
ServiceNow側連携日時		入力/変更不可
sys_id		入力/変更不可
親ホスト	名前	対象レコードの親ホスト名
	sys_id	入力/変更不可
関係性	名前	対象レコードの関係性名
	sys_id	入力/変更不可
子ホスト	名前	対象レコードの子ホスト名
	sys_id	入力/変更不可

3.3.4 Conductor実行

登録されているオペレーションとConductorを組み合わせて処理を実行します。

詳細は下記のコミュニティサイトの利用手順マニュアルをご確認ください。

[Exastro-ITA 利用手順マニュアル Conductor.pdf \(exastro-suite.github.io\)](https://exastro-suite.github.io/Exastro-ITA_利用手順マニュアル_Conductor.pdf)

Conductor[一覧]

△閉じる

選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				アクセス許可ロール				
<input checked="" type="radio"/>	600,001	ServiceNow連携					2022/02/02 14:10:06	データポータビリティプロセス

フィルタ結果件数: 1

オペレーション[一覧]

△閉じる

選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権		最終更新日時	最終更新者
						アクセス許可	ロール		
<input checked="" type="radio"/>	600,001	600,001	ServiceNow連携	2021/04/01 12:00				2022/02/02 14:05:39	データポータビリティプロセス

フィルタ結果件数: 1

3.3.5 実行結果の確認 (1/2)

Conductor実行結果画面を確認します。

The screenshot displays the Conductor execution result interface. The main workflow area shows three steps: 'Start' (marked with a blue 'S' icon), 'Ansible Legacy Role ServiceNow連携' (marked with a green 'DONE' icon), and 'End' (marked with a green 'DONE' icon). The right sidebar provides details for the conductor instance, including the status '正常終了' (Normal End), which is highlighted in a red box. Other details include Conductor Instance ID: 3, Conductor name: ServiceNow連携, Start time: 2022/02/03 17:15:45, End time: 2022/02/03 17:16:16, Execution user: サンプルユーザ, and Emergency stop: .

POINT

「Status:正常終了」となっていることを確認
それ以外の場合は途中で失敗しているので、Movementをクリックして詳細を確認してください。

3.3.5 実行結果の確認 (2/2)

ITAで連携対象のレコードを確認します。

一覧/更新

オペレーション										パラメータ							
履歴	複製	更新	廃止	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	代入順序	ServiceNow側連携日時	名前	sys_id	オペレーティングシステム	OSバージョン	メーカー
履歴	複製	更新	廃止	1	LINUX_01	1	ServiceNow連携_0401	2022/04/01 12:00	2022/04/01 12:00		1		LINUX_01_ITA		Linux Red Hat	2.6.9-22.0.1.ELsmp	Iris

確認したレコードがServiceNow側に登録されていることを確認します。

Linux サーバー 新規 検索 名前 検索

すべて

名前 ▲ オペレーティングシステム OS バージョン メーカー

Linux_01_ITA	Linux Red Hat	2.6.9-22.0.1.ELsmp	Iris
--------------	---------------	--------------------	------

POINT

連携された情報がITAに登録した通りとなっていることを確認
なっていない場合、実行したConductorの詳細を確認してエラーなどがないか確認してください。

4. 連携対象メニュー追加手順

4.1 はじめに

はじめに

- 作業は「**システム管理者**」である「**administrator**」で実施してください。
- ServiceNow連携で利用できるのは、「構成管理(CMDB)」配下に限りです。
- 作業対象メニューは下記表を参照してください。

メニューグループ名	メニュー名
メニュー作成	メニュー定義・作成
管理コンソール	ロール・メニュー紐付管理
連携情報管理	連携対象メニュー管理
連携情報管理	項目名紐づけ表
連携情報管理	メニュー_プルダウン参照先紐づけ表
マスタ管理	クラス
マスタ管理	オペレーションシステム
マスタ管理	メーカー_sys_id紐づけ表
マスタ管理	製品モデル_sys_id紐づけ表
マスタ管理	サーバ名_sys_id紐づけ表
マスタ管理	CIリレーションシップタイプ

[3.1 連携情報管理](#)を参照

[3.2 マスタ管理](#)を参照

4.2 メニュー定義・作成 (1/3)

メニュー作成をします。

- 必須項目があります。詳細は次ページへ
- クラスを利用する場合「[6.2 項目名に「クラス」を利用する場合](#)」を参照
- メニュー作成方法の詳細は下記資料を参照

[Exastro-ITA 利用手順マニュアル メニュー作成機能.pdf](#)

メニュー定義・作成

No.	ホスト名	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	パラメータ	備考	最終更新日時	最終更
1	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00		文字列(単一行)		2020/01/01 00:00:00	システ
2	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00		文字列(単一行)		2020/01/01 00:00:00	システ
3	192.168.0.1	オペレーション	2020/01/01 00:00	2020/01/01 00:00		文字列(単一行)		2020/01/01 00:00:00	システ

入力用	代入値自動登録用	参照用	ID	メニューグループ名称
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	-	unselected
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	600001	連携情報管理
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	600002	マスタ管理
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	600003	ServiceNow接続情報
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	600004	サーバ
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	2100011610	入力用
<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	2100011611	代入値自動登録用
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	2100011612	参照用

※メニューグループの作成方法は下記資料 P26~P30参照

[Exastro-ITA 利用手順マニュアル 管理コンソール.pdf](#)

POINT

「作成対象」… パラメータシート(ホスト/オペレーションあり)に固定
「入力用」… 「サーバ」などわかりやすいグループを指定

4.2 メニュー定義・作成 (2/3)

必須項目について

- ServiceNow連携では下記の2項目は必須の項目です。
- メニュー追加時は忘れずに登録してください。

項目	入力方式	最大バイト数	必須	一意制約
ServiceNow側連携日時	日時	-	-	-
sys_id	文字列(単一行)	32	-	●

入力例

The screenshot displays a configuration interface for menu items. It shows five items in a row, each with its own configuration panel. The items are: 'ServiceNow側連携日時', '名前', 'sys_id', '項目1', and '項目2'. Each panel includes a dropdown for the input type, a field for the maximum number of bytes, a field for a regular expression, and checkboxes for '必須' (Required) and '一意制約' (Unique constraint). The 'sys_id' item has '一意制約' checked. The '項目2' item has a dropdown for '選択項目' set to 'マスタ管理_5...' and a '参照項目' section with a '参照項目を選択' button. A 'REPEAT' indicator is visible on the left side of the interface.

POINT

「名前」は「sys_id」よりも後ろに配置しても動作はしますが、入力例の並びが推奨です。

4.2 メニュー定義・作成 (3/3)

〇〇_sys_id紐づけ表を利用する場合

- 必須項目であるsys_idを参照できるようにする必要があります。

入力例 2

The screenshot shows a configuration window for a menu item. The main window has several tabs: 'ServiceNow側連携日時', '名前', '項目1', and '項目2'. The '名前' tab is active, showing a dropdown menu for 'プルダウン選択' and a selection item 'マスタ管理_ServiceNow連携モデル:サーバ名_sys_id紐づけ表:名前'. Below this, the '参照項目' (Reference Item) field is set to 'sys_id'. A red box highlights the '参照項目を選択' (Select Reference Item) button. A dialog box titled '参照項目' (Reference Item) is open, showing a table with the following data:

Select	ID	Name
<input checked="" type="checkbox"/>	600016	sys_id

The '決定' (OK) button is highlighted with a red box.

4.3 ロール・メニュー紐付管理

連携対象メニューとロールを紐付けます。

各項目の細部については[ITA利用手順マニュアル](#)をご参照ください。

登録 △閉じる

項番	ロール (ID:名称) *	メニューグループ:メニュー*	紐付*	最終更新日時	最終更新者
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

Table setting

戻る 登録

項目	入力内容
ロール (ID:名称)	600002:ServiceNow管理者ロール (固定)
メニューグループ:メニュー	紐付けたいメニュー
紐付	メンテナンス可 (固定) ※表示だけさせたいといった場合は「閲覧のみ」でも可

5. ServiceNowからの情報取得方法

5.1 テーブル名の取得

取得手順

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- テーブル名を取得したいメニューの「」を押下する。
- 「リンクタイプ」を押下する。
- テーブル欄に表示されている角括弧内の値をITAに登録する。

ServiceNow



Linux

①

可視性 **リンクタイプ**

②

モジュールのリンクタイプを選択するか、セパレータを選択して水平の線を作成して

リンクタイプ レコード一覧

③

* テーブル Linuxサーバー **[cmdb_ci_linux_server]**

POINT

この値はメニュー名：連携対象メニュー管理とメニュー名：クラスの項目「テーブル名」で利用します。

5.2 ServiceNow項目名の取得 (1/2)

取得手順

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- 項目名を取得したいメニューを押下する。
- 「新規」を押下する。
- 表示されている項目名の上で右クリックをする

ServiceNow

The screenshot shows the ServiceNow CMDB interface. On the left, the 'フィルターナビゲーター' (Filter Navigator) is open, and the 'Linux' menu item is highlighted with a red box and a callout '1'. In the main area, the 'Linux サーバー' (Linux Server) list is displayed, and the '新規' (New) button is highlighted with a red box and a callout '2'. On the right, a context menu is open over the 'メーカー' (Manufacturer) field, and the '表示 - manufacturer' option is highlighted with a red box and a callout '4'. The 'メーカー' field itself is also highlighted with a red box and a callout '3'.

名前	オペレーティングシステム
<input type="checkbox"/> HOST_A	Linux Fedora
<input type="checkbox"/> HOST_B	Linux Fedora

5.2 ServiceNow項目名の取得 (2/2)

取得手順

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- 項目名を取得したいメニューを押下する。
- 項目名の右にあるスペースで右クリックし、「XML表示」を押下する。
- 表示されたXMLから該当項目名のカラム名を見つける。

ServiceNow

The screenshot shows the ServiceNow interface. On the left, a filter navigation pane is visible with 'Linux' highlighted, marked with a red circle and the number '1'. The main content area shows a table of 'Linux サーバー' (Linux Servers) with columns for '名前' (Name) and 'オペレーティングシステム' (Operating System). The table contains two rows: 'HOST A' and 'HOST B'. A context menu is open over the 'HOST A' row, with 'XML表示' (XML View) highlighted, marked with a red circle and the number '3'. A red circle with the number '2' is also present near the top of the context menu.

```
<xml>
  <cmdb_ci_linux_server>
    <asset>345188171bf0f41090fd982f0a4bcb02</asset>
    <asset_tag/>
    <assigned/>
    <assigned_to/>
    <assignment_group/>
    <attestation_score/>
    <attested>false</attested>
    <attested_by/>
    <attested_date/>
    <attributes/>
    <can_print>false</can_print>
    <category>Hardware</category>
    <cd_rom>false</cd_rom>
    <cd_speed/>
  </cmdb_ci_linux_server>
</xml>
```

5.3 オペレーティングシステムの取得

取得手順

- ServiceNowへログイン
- 「システムローカライズ」 > 「選択肢」へ移動する。
- 検索を「要素」に変更し、検索窓に「os」を入力しEnterを押下する。
- 値の列の値をITAに登録する。

ServiceNow

1

2

3

4

5

	テーブル	要素	言語	値	ラベル	ヒント	非アクティブ	シーケンス
<input type="checkbox"/>	検索	検索	検索	検索	検索	検索	検索	検索
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	ja	HP/UX	HP/UX		false	0
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2003 Web	Windows 2003 Web		false	0
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	ja	Mac OS 9	Mac OS 9		false	0
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	en	Hyper-V 2012	Hyper-V 2012		false	
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	en	SunOS	SunOS		false	
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2000 Server	Windows 2000 Server		false	0
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_win_server	os	ja	Windows 2003 Standard	Windows 2003 Standard		false	0
<input type="checkbox"/>	cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2003	Windows 2003 Datacenter		false	0

5.4 CIリレーションシップタイプのsys_idの取得

取得手順

- ServiceNowへログイン
- 「関係性」 > 「CIリレーションシップタイプ」へ移動する。
- 取得したいレコード上で右クリック
- sys_idのコピーをクリックしITAに登録する。

ServiceNow

The screenshot shows the ServiceNow interface for CI Relationship Types. The left sidebar has a 'フィルターナビゲーター' (Filter Navigator) with '関係性' (Relationships) selected and 'CI関係タイプ' (CI Relationship Type) highlighted. The main area shows a list of CI Relationship Types with columns for '親記述子' (Parent Description), '子記述子' (Child Description), and '更新日時' (Update Date). A context menu is open over the '登録:' (Registered) field of a record, with 'sys_idのコピー' (Copy sys_id) selected. The menu also includes options like 'この値で絞り込み' (Filter by this value), 'この値を除外' (Exclude this value), 'URLをクリップボードにコピー' (Copy URL to clipboard), 'タグの割り当て' (Assign tags), 'ストアからダウンロードした状態に戻す' (Return to state from store download), and '最新の更新を表示' (Show latest update).

	親記述子	子記述子	更新日時
<input type="checkbox"/>	登録:	登録済み	2010-08-25 13:24:13
<input type="checkbox"/>	管理担当者		2010-08-29 13:22:14
<input type="checkbox"/>	適用可能な	元	2015-06-01 09:49:29
<input type="checkbox"/>	配布元:		2013-08-09 13:57:12
<input type="checkbox"/>	重力		2006-07-09 16:58:27

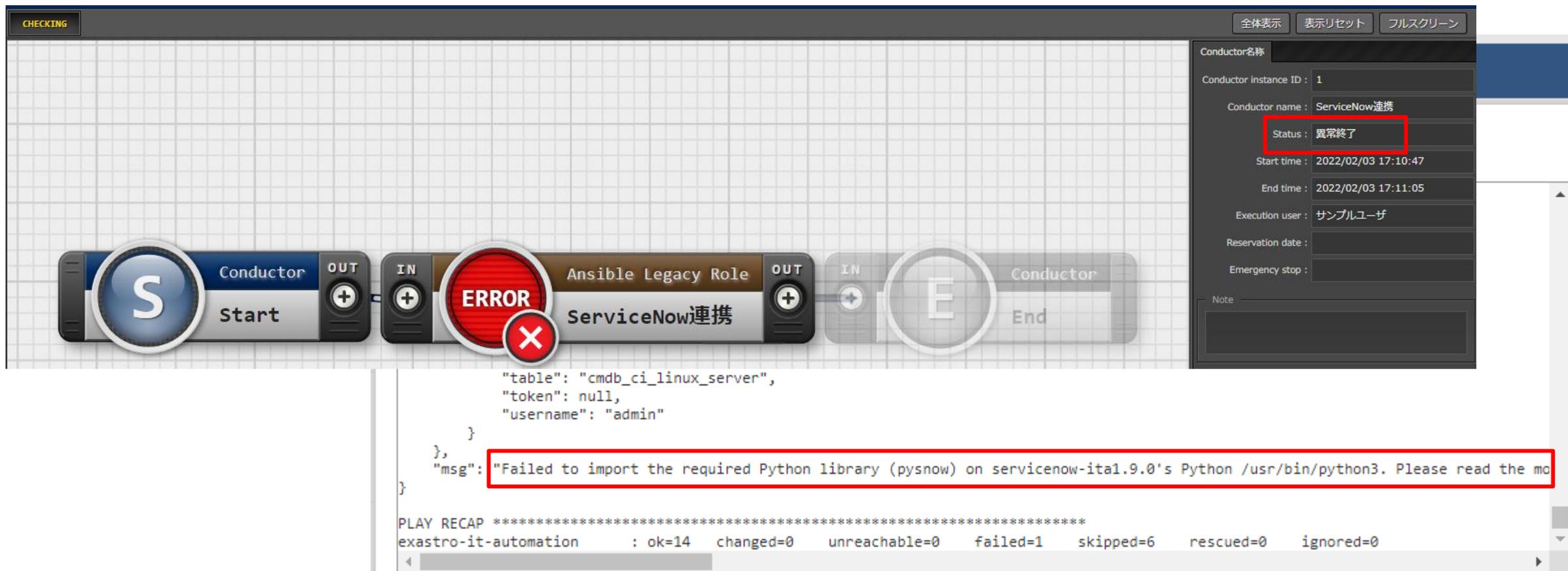
6. こんなときは？



6.1 Failed to import the required Python library～とでて異常終了する。

- 「[2.3 Playbook利用の準備](#)」がうまくいっていない可能性があります。
手順を再確認して、必要なライブラリがインストールされていることをご確認下さい。

表示例



The screenshot displays the Ansible Tower interface. The main area shows a job execution flow with a red 'ERROR' icon over the 'ServiceNow連携' task. The error message is: "Failed to import the required Python library (pysnow) on servicenow-ita1.9.0's Python /usr/bin/python3. Please read the mc". The job details on the right show the conductor name as 'ServiceNow連携' and the status as '異常終了'.

```
    "table": "cmdb_ci_linux_server",
    "token": null,
    "username": "admin"
  },
  "msg": "Failed to import the required Python library (pysnow) on servicenow-ita1.9.0's Python /usr/bin/python3. Please read the mc"
}

PLAY RECAP *****
exastro-it-automation : ok=14  changed=0  unreachable=0  failed=1  skipped=6  rescued=0  ignored=0
```

6.2 項目名に「クラス」を利用する場合

- ServiceNowのクラスは見た目は日本語（または英語）で入っているが、裏で持っているデータはテーブル名。
- ServiceNow連携モデルでは「マスタ管理」>「クラス」というメニューを作成し管理する方式をとっている。
- 入力方式を[プルダウン]にして、「クラス」を指定するのを推奨しているが、[文字列（単一行）]にして、直接入力させても問題はない

マスタ>クラス

履歴	複製	更新	廃止	No	クラス名	テーブル名
				1	Tomcat	cmdb_ci_app_server_tomcat
				2	Weblogic	cmdb_ci_app_server_weblogic
				3	Apache Web サーバ	cmdb_ci_apache_web_server

連携対象はこっち

メニュー定義・作成

クラス

プルダウン選択

選択項目* マスタ管理_ServiceNow連携モデル:クラス:クラ...

参照項目 テーブル名

参照項目を選択

初期値

参照項目

Select	ID	Name
<input checked="" type="checkbox"/>	600007	テーブル名

決定 取消

POINT

「入力方式」… [プルダウン]推奨
「参照項目」… 「テーブル名」を指定

6.3 ITAのディレクトリをデフォルトから変更している場合

何かしらの理由で、インストールディレクトリ配下のita-rootディレクトリの場所を変更した場合は下記のファイルに変更を加える必要があります。

/【インストールディレクトリ】 /ita-root/webroot/menus/sheets/0000600002/02_access.php

■ 変更前

```
17  //-- サイト個別PHP要素、ここから--
18  if(file_exists('/.dockerenv')){
19      $root_dir_path = "/exastro/ita-root";
20  }else{
21      $tmpAry=explode('ita-root', dirname(__FILE__));$root_dir_path=$tmpAry[0].'ita-root';unset($tmpAry);
22  }
```

■ 変更前

```
17  //-- サイト個別PHP要素、ここから--
18  $root_dir_path = "/【変更後ディレクトリ】 /ita-root";
```

POINT → \$root_dir_pathにita-rootディレクトリがあるパスを直接入力する

6.4 ServiceNowにCI関係性というメニューがない

表示手順

- ServiceNowへログイン
- フィルタ欄に「cmdb_rel_ci.list」と入力し、Enterを押下する。

The screenshot shows the ServiceNow interface. The search bar at the top left contains the text 'cmdb_rel_ci.list'. The search results are displayed in a table format. The table has columns for '親' (Parent), 'タイプ' (Type), '子' (Child), '接続強度' (Connection Strength), '更新日時' (Update Date), and '作成日時' (Creation Date). The first row of data shows 'Sample_ESX_Host01' as the parent, 'Registered on::Has registered' as the type, 'Sample_Windows_Host01' as the child, '常時' (Always) as the connection strength, '2022-07-21 00:35:06' as the update date, and '2022-07-20 22:24:49' as the creation date.

親	タイプ	子	接続強度	更新日時	作成日時
Sample_ESX_Host01	Registered on::Has registered	Sample_Windows_Host01	常時	2022-07-21 00:35:06	2022-07-20 22:24:49

6.5 Failed to delete record: ～とでて異常終了する

- ハードウェアモデルのように別レコードから参照されているレコードを削除する場合、先に参照しているレコードを削除する必要があります。
- サンプルデータの場合「連携対象メニュー管理」でハードウェアモデルを廃止にしたのちに、ServiceNow連携を実施し、その後復活させてServiceNow連携を実施することで削除可能となります。

表示例



The screenshot displays the Exastro console interface. At the top, a 'CHECKING' status is shown. The main area features a workflow diagram with three stages: 'Start' (Conductor), 'ServiceNow連携' (Anansible Legacy Role), and 'End' (Conductor). The 'ServiceNow連携' stage is highlighted with a large red 'ERROR' icon and a red 'X' mark. To the right, a detailed error message is displayed in a dark panel, showing the conductor name 'ServiceNow連携', status '異常終了', and the specific error: 'Failed to delete record: 400 Client Error: Bad Request for url: https://[redacted].service-now.com/api/now/table/cmdb_hardware_'. Below the workflow, a terminal window shows the task execution details, including the error message and a 'PLAY RECAP' summary: 'exastro-it-automation : ok=82 changed=2 unreachable=0 failed=1 skipped=6 rescued=0 ignored=0'.

6.5 Failed to delete record: ～とでて異常終了する

廃止時表示例

≡ Menu

- メインメニュー
- 連携対象メニュー管理
- 項目名紐づけ表
- メニュー_プルダウン参照先紐づけ表

説明 ▽開く

表示フィルタ ▽開く

一覧/更新 △閉じる

履歴	複製	更新	廃止	No	メニュー名	メニューID	テーブル名	最終更新日時	最終更新者
履歴	複製	更新	廃止	1	600008:代入値自動登録用_Servicenow連携モデル:600014:会社	600014	core_company	2022/07/25 13:08:12	データポータビリティプロシージャ
履歴	複製	更新	復活	2	600008:代入値自動登録用_Servicenow連携モデル:600017:ハードウェアモデル	600017	cmdb_hardware_produc	2022/07/25 16:36:56	システム管理者
履歴	複製	更新	廃止	3	600008:代入値自動登録用_Servicenow連携モデル:600020:Linux	600020	cmdb_ci_linux_server	2022/07/25 13:08:12	データポータビリティプロシージャ



Exastro